一般社団法人甲賀市国際交流協会広報部　第64号

News Letter　KIS 通信

海 外 交 流 特 集

韓国利川市　新屯小学校からかわいい小学生と引率の先生がきてくれました。

利川市・新屯小学校の先生と生徒さんと共に

韓国から　안녕하세요/アンニョンハセヨ

1 月 24 日から 27 日まで、昨年世界まなびじゅくのオンライン交流会と Flat Kid’s Project で交流した韓国利川市の新屯小学校の 7 名の小学生と先生方が甲賀市を訪問されました。

24 日の夜は、宿泊先のホテル古城で歓迎会。教育長や副市長、昨年 11 月に利川を訪問した使節団からも参加してくださり、韓国のオモニが準備してくれたたくさんの韓国と日本の料理をいただきながら交流しました。小学生もスマホで似顔絵を描いてくれたり、スマホの翻訳機能を使って積極的にコミュニケーションをとっていました。その中で小学生なりに、甲賀市と利川市の交流が長いことを感じ取ってくれたようでした。

おもてなし

25 日は、貴生川小学校の 5 年生と交流。貴生川小児童のソーランの歓迎に始まり、それぞれが準備していた、自分の国の文化紹介を英語でしました。新屯小の児童は前日まで練習して、立派に発表をしていました。終わって先生に褒められて嬉しかったと子供らしい一面も。貴生川小の児童の発表も上手で、お互いに質問をする場面もありました。その後は、縄跳びや自己紹介、給食を一緒に食べたりと、言葉がわからなくても身振り手振りでコミュニケーションをとる小学生たちが頼もしく見えました。

26 日は、小原小学校の 6 年生と交流しました。全校生徒の出迎えを受けて、すぐに緊張も解けたようでした。小原小の児童は日本文化紹介の発表やクイズをたくさん準備してくれていて、先生方も興味津々で質問したり、日本についてたくさんわかったと言う児童もいました。その後は一緒にタヌキ作り。先生に教えていただきながら 1 人 1 体作りました。新屯小の児童は、お父さんやお母さん、又はおじいちゃんが陶芸家という児童もいて、驚くほどみんな上手でした。同じテーブルの児童が教えてくれたり世話をしてくれたりしたようで、みんな親切で嬉しかったと言っていました。

27 日帰国直前の朝、やっと Flat Kids Project などで交流した甲賀市の児童と対面することができました。オンライン交流会で一度は出会い、その後手紙で何度かやりとりをして、お互いに会いたいと思ってくれていましたが、とうとう実現することができました。

甲賀市の児童は 1 年生から 6 年生までいますが、事前に挨拶やパフォーマンスをしたいか尋ねると、低学年でも歓迎の挨拶をしたい、ダンスを見せたいなど、みんな自ら立候補してくれて、子ども達の積極性がとても嬉しかったです。新屯小の児童は、12 月に終えた卒業式で踊ったダンスを 3 つのグループに分かれて披露。さすが K-pop の国！みんなキレキレのダンスでした。初めはお互いに緊張している様子でしたが、ダンスをしたり一緒にゲームしたりするうちに次第に打ち解けてきて、たった一時間の交流会でしたが、出発の時には全員名残惜しそうでした。新屯小の一人の児童が「見送ってくれた友達に会いたかった分だけ力強く手を振った」と帰国後に感想を送ってくれました。

かわいいダンスを披露してくれた韓国の小学生

中国から你好!　　nǐ hǎo / ニーハオ

１月１３日　世界まなびじゅく「中国」を行いました。ゲストは中国出身で甲賀市在住の岡崎ジャーミンさんです。

　中国の小学校の様子、小学生の生活などをたくさんの写真や動画を使って紹介してくれました。

　学校では目のマッサージの時間があるそうで、一緒にやってみました。また、給食後は昼寝の時間が！　その映像を見せてもらいましたが、先生の号令で机と椅子が一瞬のうちに倒れて寝る体勢に。そして 30 分後、また先生の号令で一瞬のうちに机と椅子が元にもどります。参加児童や見学の大人からも驚きの声があがりました。ジャーミンさんは、昼寝が終わってすぐに授業開始なので、眠くて勉強に集中できないと言われ、笑いを誘っていました。

　子ども達それぞれの名前を中国語読みで呼んでもらいましたが、全然読み方が変わって誰かわからないことも驚いていました。中国語クイズで、日本と中国の漢字の違いも楽しく教わって、「中国に行ってみたい」「今まで中国のことを知らなかったけれども、行ける感じがした」などの感想を聞かせてくれました。

パラグアイから　Mba´éichapa nde ka´aru.（バエイシャパ デ カアル）

　３月９日　世界まなびじゅく「パラグアイ」。海外青年協力隊でパラグアイに赴任され、現在は北海道から国際交流協会のメンバーとして参加してくれている向井歩さんをゲストに開催しました。

　赴任されていた地域の小学校の写真を見せていただきました。運動場が舗装されていて屋根があったり、教室は暖房がないので先生も児童もダウンジャケットを着て授業していたり、また教室はカラフルな机や椅子など、日本と違うところも多く、参加者は興味深く聞いていました。瓶を頭の上に載せてスカートを揺らしながら優雅に踊る伝統のボトルダンスにチャレンジし、ダンスの衣装の試着もさせてもらいました。

マテ茶を飲むコップ

　パラグアイの刺繍は「ニャンドゥティー」と呼ばれていて、花や苺、ハチなど様々なモチーフがあり色とりどりの糸で編まれています。さすがに刺繍は難しいので、色塗りにチャレンジ。思い思いの色で塗ってくれました。

　最後は、パラグアイのチョコレートのお菓子とマテ茶をいただきました。チョコレートはみんな大喜び。マテ茶は葉っぱをコップにいれて、茶こしのようなものが先に付いたストローで飲みました。子どもには苦かったようで、「にがー！」とみんな何とも言えない表情。パラグアイの子ども達は平気で飲むそうです。本当の味、本当のパラグアイを体験してもらいました。

姉妹都市「利川市・甲賀市中学生国際交流事業」12月2日（土）～6日（水）

甲賀市の姉妹都市、大韓民国・利川市より會浦中学生６名と引率の先生２名、通訳１名の方が来られました。2016年以降、利川市との中学生交流事業は途絶えており、今年度は受入のみの実施とはなりましたが、この交流は相互の異文化理解を深めることで多文化理解の地域づくりにもつながる大切な事業として続けてこられました。
利川市の生徒は甲賀市内の生徒宅にホームスティしました。今回は受入をして下さいました保護者の方の感想を紹介します。

★今回のホームステイの受け入れは、私達家族にとって忘れられない素晴らしい経験となりました。　今回の受け入れが初であり、特に子どもたちは(ALT等以外で)初めて出会う「外国人」が一体どんな人なのか期待や不安を抱いておりましたが、今回の受け入れを経て、相手を「外国人」ではなく、一個人として大切にし交流していたように思います。　またコミュニケーションは、スマホがあるから何とかなるかなと思っていましたが、やはりスマホを通した会話にはタイムログができてしまい、今ひとつな雰囲気になりがちでした。ただ今回は相手の方がある程度の英語を話せたことでその点は解消され、子どもたちも英語の必要性を身をもって痛感し、その後の勉強への姿勢を大きく変えることに繋がりました。
　たった五日間だったとは思えないほど、彼女はすでに家族の一員でした。本当に素晴らしいお子さんで、大変居心地が良かったです。いつでも、日本に来る時はうちに帰ってきてほしいです。（M）

★今回、初めてホストファミリーとして韓国の中学生を受け入れさせていただき、お世話をさせていただきました。韓国語も英語もおぼつかない状況で、スマートフォンの翻訳機能に頼りっきりでしたが、韓国のこと、利川市のことを話してもらい、韓国のことを改めて知る機会となり私達家族にとって大変よい経験となりました。５日間という限られた日程でしたが、甲賀市のことを知っていただく機会になったのではないかと感じています。(S．T)

★ホームステイを受け入れる前は不安でいっぱいでしたが、終わってみると充実感と、中学生と別れる淋しさでいっぱいになりました。翻訳アプリなど事前に準備しましたが、全く使うことはなく、中学生とは日本語で会話ができました。生活の仕方も似ていて、我が子と同じ中学生だと身近に感じました。このホームステイをきっかけに、家族みんなで韓国のことを知ろうと事前に図書館で調べたり、甲賀や日本の文化を見直したりすることもでき、よい機会になりました。

★コロナ渦で海外はもちろん、旅行にもなかなか行きにくい数年を過ごした後の他の国の人との交流ができる体験は娘たちにも保護者にもとても貴重な経験でした。
娘たちにとっては、同世代の子で、４泊５日というとても短い間でしたが、一緒に買い物に行っても興味があるものがよくわかるようでしたし、韓国と日本のプリクラの違いを体験したり、とても仲良くなって、その後も連絡を取る関係も築けたようです。
　今はネットですぐに世界のことがわかる世の中ですが、田舎で暮らす中学生が実際に生活する範囲内で他の国の人と交流して体験できることは、こういう機会でもなければ、まずなかったと思うので、参加して本当によかったです。今回の体験を通して、視野の広い子に育ってほしいと思います。（U）

姉妹都市「ミシガン州デウィット市・甲賀市　中学生国際交流事業」

2024 年 2 月 2 日（金）～8 日（木）

午後の体験プログラム「お雛様の飾り作り」にてそれぞれが作成した作品

甲賀市の姉妹都市であるミシガン州・デウィット市よりデウィットミドルスクールの学生６名と引率の先生２名が来られました。コロナ禍の影響で 2020 年 1 月派遣以降直接の交流ができなかった中、今年度はデウィット市の受入のみの交流とはなりましたが、歴史あるこの事業が多くの方の想いによって再開されました。午前は中学校で授業・給食を体験し、午後は市内の見学や市民の方との交流を通して日本文化に触れる経験をされました。また、滞在中は引率者も市内のご家庭にホームステイされました。受入して下さった中学生の保護者の感想を紹介します。

◆Entramos neste intercâmbio a fim de experimentar o que seria receber um estrangeiro! A primeira dificuldade foi a língua pois embora morando no Japão, somos brasileiros então em casa falamos o português,mas meu filho mais velho que tem autismo fala mais em japonês, já a Bianca consegue dominar tanto o português como o japonês e algumas palavras em inglês , aliás este foi o principal motivo dela ter-se inscrito para receber o Jacob! Pois deseja fazer intercâmbio no Koko ou daigaku!

Ele trouxe presentes e muito tímido nos comunicávamos através do Google tradutor! Sempre sorridente aceitava tudo que oferecíamos , percebi que ele tem muita curiosidade e tudo tirava foto!

Foi passear no snowboarding sábado , domingo em Nagoya / Kamimaezu!

Acho que se divertiu!!

◆英語の心配はありましたが、子どもの視野が広がればいいなと受け入れを決めました。日本での初めての体験に戸惑ったり驚いたりする素直な反応がとても可愛らしく印象的です。子ども同士も仲良くなり、英語だけでなくアメリカ（デウィット市）も身近に感じられました。普段は意識することのない日本らしさや日本とアメリカの違いをお互いに楽しく知ることができたと思います。言葉を超えた心が温まるような交流ができました。（N）

◆利川市に続き、デゥイット市との交流にも参加させていただき、今回も家族みんなでとても貴重な経験ができたと思います。デウィット市の生徒のほうは最初の数日はフライトの疲れや、時差の影響であまり活動できない様子で、こちらも予定通りにはいかず、お互いに歩み寄るのに少し時間がかかった気がします。それでも滞在が２日ほど長かったので、子ども達は学校で一緒に過ごせる時間が多く、友達も一緒に楽しめたことを教えてくれました。

今回はアプリに頼らないで、勉強してきた英語を何とか使って話そうとがんばりました。でもやはり、簡単ではない、と改めて実感して、終わるころには、もっと英語ができるようになりたい、留学してみたい、と娘が言いました。これまで何となく勉強していた英語の必要性をやっと実感できた貴重な経験になったのは親としてとても嬉しかったです。

韓国はやはり同じアジアだけど、アメリカはずいぶんと文化が違いそう、と子ども達なりに感じ取っていたことも、２都市の国際交流を体験した面白さだったと思います。ありがとうございました。（U）

姉妹都市交流事業「韓国・利川市　交流の旅」　11月16日（木）～19日（日）

　11月16日から19日の４日間、市民１８名が姉妹都市の利川市を訪問しました。盛大な歓迎会や文化院訪問など、どの場面においても、私たちの訪問を心から歓迎し、両市の長い交流を大切に思ってくださっていることを感じました。
　ホームステイで実際の家庭生活を味わえたことも、お互いを理解するうえで大変良い体験だったと思います。
　利川の人々の温かい心のおかげで、全員が利川ファン、韓国ファンになって帰国しました。以下に参加者の感想を載せます。

●サッカーという共通の趣味を持つホストファミリーとのマッチングから幸福なホームステイの幕が開けた。奇しくも初日に韓国代表のサッカーの試合があり、これまた韓国のスポーツ観戦定番チメク（チキンとビール）で酔いしれる。
ホストファミリーは僕より少し若いご夫婦と３歳のお姫様アリンちゃん。
精一杯の韓国語で色んなことを話して出た僕達の結論は、結局人だということ。
人が旅の目的になり得るし、利川の人々と今後もよい交流を重ねていきたい。

U.H

●今回初めて利川へ行かせて頂きました。
最初の歓迎会から実に盛大で心温まる歓迎をしていただき、多く参加して下さっている利川の方々の数からも利川と甲賀の交流の長さと深さが感じられました。利川文化院の見学も市内の観光もとても興味深いものでした。
ホストファミリーもとても温かい方々で、身振り手振りや翻訳アプリを使いながらのコミュニケーションでしたが、それだからこそ、お互いをよく理解しようとする気持ちが働いたのか、たった２日間程でも絆を深めることができたような気がします。お別れの時に、涙ぐんでしまった私を真っ赤な目でハグしてくれたホストファミリーの表情が忘れられません。心から参加して良かったと思う旅でした。この良さを甲賀の方たちに伝えたいし、今後も利川と甲賀の交流が続くように私も努力していきたいと思っています。

●「一人で歩くことは大変ですが、一緒だと、もっと遠く、もっと幸せに歩くことができます」「甲賀・利川両市がつくる美しい物語が果てしなく続くことを願っています」利川文化院長・趙聖源（ジョ・ソン・ウォン）氏は歓迎会における歓迎の辞でこのように述べられました。教育委員会勤務などの関係で利川の方々とは交流があったものの訪問は初めてでしたが、両市がこれまで国家間の課題など様々な困難を乗り越えて、長い間互いを尊重し合い友情を培ってきたことを、改めて感じることができた「韓国・利川市　交流の旅」でした。　西村文一

●韓国のドラマが好きで、いつか韓国に行ってみたいと思ってたのですがホームステイという、普通の旅行ではない韓国利川の方との人と人の交流が出来てとてもいい体験になりました。ほんの少しの韓国語しか話せない私に日本語で優しく接してくれて、家族皆さんで気遣って頂いたおかげで楽しい日々でした。

●韓国・利川市から帰国して日を追うごとに「あ～良かったなぁ～」と密かに感慨にふけっております。元々私は“キャー♡韓国！”というのではなかったし､顔もよく似てるしキムチは好きだけどお酒は飲めないし…。でもでも 30 年も交流が続いている国ということは何かでっかい魅力があるんだろう！？と参加することにしました。熱烈歓迎で迎えられた交流会。パック旅行では味わえないホームステイ。ドラマの中の日常が体験できました。韓国の人は熱血漢で豪快なイメージがあったんですが、町の中は車が多くてもクラクションがほとんど鳴らず静か。また、大きな交差点で大型バスがＵターンしてもみんな気長に待たれているのを見て繊細で所作のスマートさも肌で感じ“キャー♡韓国！”となって帰ってきました。又、もし、次に行く機会のために韓国語を勉強し、マッコリを飲めるようにしておこう。　Ｙ・Ａ

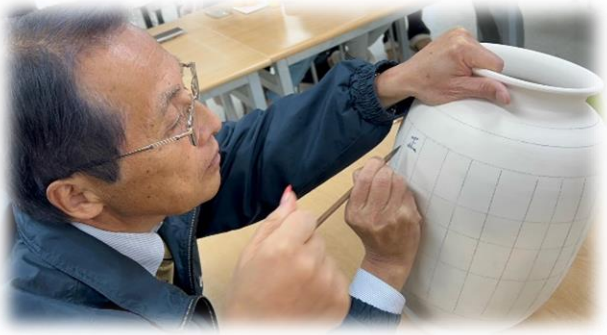
コロナ禍を乗り越えて

～姉妹都市交流事業　利川市へ市民訪問団派遣～

歓迎会のパンフレット表紙

歓迎交流会の様子　～懐かしい再会も～

ホストファミリーとお別れ　～再会を約束～



陶器の壺に団員全員が名前を

利川文化院を訪問

2023 年度　日本語ボランティア養成講座/スキルアップ講座

当協会が行う日本語教室で活動していただくボランティアを養成するための講座を開催しました。
昨年に続き、実際に日本語教室のボランティアとして活動していただいている勝尾さんに講師をおつとめいただき、ボランティアとしての心構えや学習者の立場になって外国語としての日本語を教えることについて、ご講義いただきました。
活動中の実践者として、自らのご経験も交え、普段の日本語教室の活動の様子などもお話いただいたことで、受講者も日本語教室のイメージがわき、ほとんどの方が新年度から日本語教室のボランティアとして活動されることになりました。
また、ボランティアが自ら学び続けることが大切であることから、すでに活動中の日本語ボランティアを対象としたスキルアップ講座も開催しました。
地域のボランティアによる日本語教室の役割は、甲賀市に住む外国人市民にとって、日本語を学ぶ場所であると同時に、ボランティアとの信頼関係により、甲賀市での暮らしを心豊かにする居場所でもあります。
2024 年度の日本語教室もすでに始まり、虹、にんじゃ、2つの教室を合わせて 70 名近くの学習者が日本語を学んでいます。今回のボランティア養成講座を受講されてボランティアデビューをされた方も、まずはアシスタントとして活動をスタートされています。
見学等をご希望の方は事務局までお知らせください。

妹都市：米国・ミシガン州

マーシャル市からの贈り物展

2024/2/6～3/4

今から 40 年前（昭和 59 年）旧甲賀町と米国・ミシガン州マーシャル市との間で姉妹都市を結んで今年で 40 年を迎えます！

旧甲賀町時代の 20 年間には甲賀町から 105 人の皆さんがマーシャル市を訪問し、1 年交代にマーシャル市からの訪問団を受入れてきました。

甲賀市になっても既に 20 年の交流が続いていますが、旧町時代にはマーシャル市からの訪問団を受入れる毎に色々な贈り物を頂きましたが、その貴重な贈り物を展示するスペースも無く、倉庫の片隅に置かれていましたので、こんな素晴らしい贈り物の数々を市民の皆さまにご覧頂き、歴史ある友情の街、マーシャル市への想いを深めて頂こうと、甲賀町マーシャル会では「マーシャル市からの贈り物展」として、去る令和６年２月６日から同３月４日まで甲賀図書情報館にて企画展示を行いました。

贈り物は大きなモニュメントから小さな盾まで約２０点余り、マーシャル市を代表する歴史的建造物の刺繍や民族楽器、女児人形大使等々、もの珍しい物ばかり・・・、展示期間中、多くの皆さんが足を止めて、興味深くご覧いただきました。

甲賀市には４カ所の姉妹都市（ミシガン３都市、韓国１都市）ががあり、旧町時代からのお付き合いをしていますが、そうした各都市から贈られた貴重なプレゼントは友情の証ですから今回の企画で終わらず、何処か一角に常設展示されることを願っています。

２０２４年度　日本語教室がスタートしました　！

にんじゃ日本語教室　土曜日夜　PM7：30～PM9:00 迄

虹　日本語教室　　月曜日昼　PM2：00～PM4:00 迄

一般社団法人甲賀市国際交流協会

TEL:0748-63-8728

FAX:0748-70-6468

E-mail:mifa@mx.biwa.ne.jp

２０２４年5月１２日（日）から
「みなくるプラザ」がオープンします

一般社団法人甲賀市国際交流協会の事務局も移転し、みなくるプラザの中の多文化共生センターに移ります。
お近くにお越しの際は、ぜひお越しください